

平成 26 年度予算編成について

1. 平成 26 年度予算の概要

平成 26 年度予算は、通学制養成講座の募集が定員の 84.2%にとどまり、24 年度受講者より 186 名減少し、昨年度同様に厳しい予算編成となりました。

平成 26 年度の予算規模は、総収入 25 億 8 千 4 百万円、総支出 25 億 7 千万円で当期正味財産増減額は 1 千 4 百万円のプラスとなりました。25 年度決算対比で総収入は 2 千 6 百万円の増収、総支出は 2 千 9 百万円の増加、当期正味財産増減額は 1 千 2 百万円の増益となります。25 年度よりも収入及び正味財産増減額も改善されていますが、一般社団法人カウンセリングサポートセンターの解散に伴う残余財産の寄付金として 1 千 7 百万円、同法人の図書販売事業（特別会計収益）の継承による 1 千 6 百万円を計上したことにより増益となっています。

また、本年度も引き続き公益目的支出計画に沿って実施 4 事業で 6 千 7 百万円の支出を見込んでいます。公益目的支出事業とその他一般事業を分けますと公益目的支出で 6 千 7 百万円のマイナス、その他一般事業で 8 千百万円のプラスとなります。（総会資料 00P を参照ください）

2. 収 入

個人会費収入は 26 年度末会員数が 30,000 名を超えるとの見込みで入会金と合わせ 1 千 7 百万円の増収を見込んでいます。賛助会員は各支部で目標を立て 60 社の増加を見込み 3 百万円の増加を見込んでいます。事業収入全体（26 年度は全国研究大会が開催されないため除く）では前年度実績対比 1 千 8 百万円の増収となっています。養成講座、キャリア講座で 5 千 4 百万円の減収になりましたが、通学制養成講座、会員研修、普及事業が大きく伸ばし 5 千 7 百万円の増収となり、養成講座、キャリア講座の落ち込みをカバーしました。

受託事業は 26 年度厚生労働省委託事業「こころの耳」が継続受託しましたが東京都委託事業「若者総合相談（若ナビ）」の受託ができなかったため 1 千 8 百万円の減収となりました。

3. 支 出

全国研究大会を除く事業支出全体では 4 千万円増加の 13 億 7 千万円となりました。認定試験事業は、大学等の公的施設の使用が難しくなったため、民間の施設を利用せざるをえなくなりそうであることや、郵送費等の経費負担が見込まれるため、前年度実績対比で 4 千万円の増加を見込んでいます。養成講座、キャリア講座は収入減に伴い 2 千 7 百万円の減少、通信制養成講座、会員研修、

普及事業は、収入の伸びにより合わせて4千5百万円の増加となりました。

広報宣伝費は、養成講座受講者確保のための広告費等として1千8百万円増額しました。毎年一般管理費の増加が大きいため、通信費、委託費等の見直しを行い2千2百万円の減額を見込み、管理費全体で1千2百万円の減額予算となりました。

4. 公益目的支出事業について

公益目的支出事業全体で6千7百万円の支出を見込んでいます。個別では相談室における相談事業で3千1百万円、公開講座で1千1百万円、産業カウンセリング体験講座で1千2百万円、無料電話相談で1千2百万円の支出を見込みです。